

## 更生保護制度

問題 147 更生保護に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 更生保護には、犯罪予防の活動の促進が含まれる。
- 2 更生保護には、再犯・再非行の防止は含まれない。
- 3 更生保護の処遇は、矯正施設における施設内処遇を主とする。
- 4 更生保護制度の基本となる法律は監獄法である。
- 5 更生保護行政をつかさどる国の機関は、厚生労働省である。

問題 148 少年院に収容中の者に対する生活環境の調整に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 仮退院決定後、速やかに開始する。
- 2 裁判所の発する令状をもって開始する。
- 3 調整すべき事項に借金返済のための金品の給与が含まれる。
- 4 少年院の法務技官によって行われる。
- 5 調整すべき事項に釈放後の就業先や通学先の確保が含まれる。

問題 149 事例を読んで、仮釈放に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Mさん(25歳)は、交通事故(人身事故)で懲役3年の実刑判決を受けてV刑務所に収容され、刑に服して6か月が過ぎた。深く反省し、服役中の行状も良好である。かつてMさんが勤務していた会社の社長Aさんは、Mさんが釈放された場合、自分が引受人になって再びMさんを雇用してもよいと考えている。

- 1 Mさんの仮釈放の審理を開始するには、MさんがV刑務所の長に仮釈放を申し立てなければならない。
- 2 Mさんは、仮釈放になった後は保護観察が付されない可能性がある。
- 3 Mさんの仮釈放の審理において、被害者の意見や心情は反映されない。
- 4 Mさんについて、現在の刑に服した期間では仮釈放の決定はできない。
- 5 Mさんの家族以外の者が仮釈放後の引受人になることはできない。

問題 150 事例を読んで、B 社会復帰調整官の業務として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

保護観察所のB 社会復帰調整官は、「医療観察法」に基づく処遇の対象者であるC さん(30 歳)を担当することになった。C さんは「医療観察法」第107 条に規定されている「守るべき事項」により届け出た居住地で生活している。

- 1 C さんの居住地の保護司にC さんの処遇判断を委ねる。
- 2 C さんの「守るべき事項」に、必要に応じて新たな事項を加える。
- 3 C さんの通院状況や生活状況を見守るとともに、必要な指導を行う。
- 4 C さんの病状が悪化した場合、指定入院医療機関への入院を決定する。
- 5 C さんの病状が安定した場合、「医療観察法」による医療の終了を決定する。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。